

YA本研究会だより

2017.10

Vol.4



…ご来店ありがとうございました！ by Cafe Awai…

早くも「恒例行事の仲間入りか!？」とウワサのYA研主催ブックカフェを、今年も開店することができました。晴天に恵まれ、頼んでもいないのに真夏のような暑さまでもたらされ、日ごろの行いが良いのか悪いのか…

借りてきたテントの骨組みが違うという大事件に見舞われたものの無事開店時間に間に合い、ホッと一安心。午前の部のイベント、YA研メンバーによる「ビブリオバトル」へと突入。いつもは正確な体内時計を持っているらしきメンバーたちですが、やっぱり一般聴衆の前では緊張したのでしょう。「まだ3分よ!」という司会者の声に無言の悲鳴が…。



タラ〜ッという音が聞こえそうな雰囲気の中、紹介された本は…

「バムとケロのにちようび」

「The Pen」

「勉強ができるほく」のつくり方

「土方歳三 - 新選組を組織した男 -」

「夜の写本師」

「暗殺教室 殺すう」

聴衆を魅了し、チャンズ本に選ばれたのは…

「The Pen」池田学/著

青幻舎 2017.1 ¥3,700 (723.1イ) 所蔵:本館



《内容》

1ミリ以下のペン先が生み出す巨大宇宙一。佐賀県出身で現在アメリカ在住の著者の20年の軌跡を収めた画集。

《おすすめのポイント》

1日にわずか10cm四方しか描けないーあんなに大きな絵なのにーほど、とにかく緻密!

1枚の絵から受け取る情報量の多さに圧倒される!

今年1月に開催された佐賀県立美術館での「里帰り」展覧会に行った人には、そのスゴさがわかるはず。

えっ! 観てない!? そんなアタタも、この本でその一端を実感できます。



…第3回目の図書館員体験はカウンター業務…

戦いに幕が閉じ、「さて、お昼でも食べようか」とホッとしたのも束の間、カウンターでのお仕事が順番でやってきます。「今日のタイムスケジュール作ったからね。みんなそれを見て行動してね。声かけないからね」との言葉を残し、不必要にぼたぼたしている司書を尻目に、おだ

やかに、ニコやかに接客している中高生を見て、利用者さんの顔もほころびがち。

「がんばってね」「カフェとこっちと大変ね」と応援していただきました。



…本日の目玉「激論！だからマンガが好きなのよ」…

これまでは門外不出、部外者には「ウワサは耳にするけど」的にナメとされてきたYA研の「マンガバトル」が、ついにそのベールを脱ぐ時がやってまいりました。メンバーだけが、1年の締めくくりに、人知れず熱い思いをたぎらせしゃべりまくってきたこのイベントを、一般の方々と楽しもう！だって、みんなマンガが好きなはず…。はたして、そうなのか…!?

200冊以上のマンガを楽しめることをウリにした今回のブックカフェ。開店と同時にマンガが貸し出されている様子に「ほお～ら、やっぱりねえ」とほくそ笑んだスタッフたち。しかし！人前でしゃべることには緊張がついてくる。お気に入りのマンガを手に入れているものの、表情は午前中の「ピフリオバトル」と同じ。「文豪ストレイドックス」「鬼灯の冷徹」「黒執事」「ナンバカ」「ワンピース」と紹介が進むも、伝えたいことの何%言えてるのかなあ、みんなに伝わってるかなあと心配しつつ、若い子が好きなマンガばかりじゃアしだからーと、ホントはしゃべりたいだけの司書が取り出したのは、図書館にも所蔵がある一実は自分で寄贈した「ラブパック」。すると、あるお母さんが「それ、最近娘と借りて読みました」とバトルという名の座談会に参戦してください…。そこからは、マンガ談義が出るわ出るわ。



「あのマンガの実写版はゆるせない」

「もし実写版を作るなら、〇〇さんに演じてもらいたい」

「最近読んだ「ゴールデンカムイ」がおすすめ」

「一番好きなのは「11人いる！」」

…などなど、終了時間が来ても随所で会話が弾んでいました。

ある参加者から「太った継母が出てきて、娘が家出して、お父さんが「こんな安いコーヒーをおいしくいられるなんて、お母さんはすごいな」って言うマンガを探して」としファレンス(?)まで受けました。果たして司書の仕事を全うできるのか、かなり不安ではありますが、やっぱり大人も子どもも「マンガが好きなのよ」を実感できたイベントでした。



みなさま
ご来場ありがとうございました



また来年
会えるといいな…